

<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 北海道レインボー・リソースセンターL-Port	<b>所在地</b>	札幌市
<b>団体概要</b>	<p>2012年に設立。以下の三本柱でセクシュアル・マイノリティ（性的マイノリティ）の支援に取り組んでいる。</p> <p>① <b>相談事業</b> : セクシャリティ専門の個別相談への対応。</p> <p>② <b>居場所事業</b> : 当事者同士の交流会、勉強会、イベントなどを開催。様々な人と会うことで自分にとって生き方の手本となるようなロールモデルを見つけることもできる。</p> <p>③ <b>講師派遣事業</b> : セクシュアル・マジョリティの人たちに、セクシュアル・マイノリティの知識の啓発を行う。特に教育現場に出向き、高校生、大学生、教師、支援者に向け講演を行っている。</p>		

## SNSによるセクシュアル・マイノリティ専門相談「にじいろ talk-talk」

<b>背景</b>	<p>設立から2017年まで、セクシュアル・マイノリティの人たちからの電話相談を受けてきたが、相談者が40～50代で戸籍上の性別が男性中心と、非常に限られていた現状があった。一方、若年層の当事者は自身のセクシュアリティに気づき始めたばかりでそれを受け入れることができず、誰にも話せずに悩みを抱え深刻なケースも多い。もっと若年層が相談しやすい方法を考える必要性を感じていた。</p> <p>社会では、近年になって少しずつセクシュアル・マイノリティへの理解や支援が進み、2015年ごろから、支援団体だけでなく自治体や行政でも、「電話相談」は行うようになってきた。そのため、電話相談はそちらに任せ、それ以外の相談方法を当法人で行おうと考えるようになった。</p>
<b>活動内容</b>	<p>若年層が利用しやすい無料通信アプリLINEによる、LGBTQなど自身の性の在り方に悩むセクシュアル・マイノリティへの相談事業を実施している。月2回、夜3時間ずつ、1相談あたり約30分間で先着順に相談を受け付ける。</p> <p>相談窓口の周知はTwitterを積極的に活用している。若者の利用が多く、またセクシュアル・マイノリティ当事者というターゲットへのアプローチがしやすく検索もかけやすいということが大きな理由で、ここで当相談を知る人が最も多い。講師派遣事業で出かけた際には、アクセス先を記したカードを配って周知している。</p> <p>現在相談員は8人。ほかに仕事をもつ社会人や大学生などで、平均年齢25～26歳と若い。事前に相談員としての姿勢やスキル、質問のバリエーションとその対応などの研修を受け、現場での研修も積んで相談業務に就いている。自身のケアについて学ぶことも重要と考えている。</p> <p>セクシュアル・マイノリティに特化したLINEでの相談は当法人が全国初である。それに続き現在全国で4つの当事者支援団体がLINE相談を行っている。うち3団体の研修に、当法人は関わってきた。</p> <p>相談員はそれまでほぼボランティアであったが、休眠預金を用いて謝金を払うようになった。休眠預金はそのほかに拠点の確保、専門家を招くなど研修の質の向上、実績報告会の開催、報告書の作成などに使用している。</p>

## 活動を実施する中での気づき・発見（成果・効果）

LINE 相談は 10～20 代が 90%と、若年層の相談先として機能できるようになった。また、電話相談のときは 1 回の開設で 4～5 件の相談しか受けられなかったが、LINE では 20～30 件と、多くの相談を受けることができるようになった。

LINE 相談のよさは、全国どこからでも相談を受け付けられることにもある。地理的に LGBTQ のコミュニティに参加できない、あるいは参加するエネルギーをもたない若年層にとって、これまで誰にも打ち明けられなかった悩みを聞いてもらえる唯一の場所となっている。また、LINE 相談は文字でのやりとりになるため、相談後にはやりとりの記録を電子カルテとして保存・共有することが容易であることもメリットである。

相談員に謝金を払うことにより意識を持って取り組んでもらうことができようになり、相談員の早期離脱も減った。拠点を確保したことで安定して相談事業を行えるようになった。実績報告会の実施や報告書の作成で、より多くの支援団体、行政に同事業を周知できた。

## 課題、今後取り組もうとしていること（展望）

今は月 2 回という限られた時間しか相談を行うことができず、もっと回数や時間を増やしてほしいという声もある。より多くの時間相談を受け付けるためには相談員の増員が必要であり、ホームページなどで募集をかけている。

また、助成金の終了後、資金を確保し持続的な活動につなげるためにも、作成した報告書などを用いて教育機関や支援相談機関などに活動を伝え、より多くの応援者・会員を創出していく必要があると感じている。

当法人のみでなく、さまざまな支援団体や自治体がセクシュアル・マイノリティの相談支援を行うことで、いずれ毎日どこかに必ずつながり、相談を受けられるような社会を目指し、活動していきたい。



アクセス先を裏に明示した相談カード



イベント等でレインボーグッズの販売も行っている

## 活動内容に関する問い合わせ先

特定非営利活動法人 北海道レインボー・リソースセンター-L-Port 代表理事 中谷衣里  
メール：lgbs2017@yahoo.co.jp